

切土補強土壁を造成するなら



HALUパネル

【目次】

■ TOPICS : パネル式切土補強土壁工法「HALUパネル工法」	P.2
■ 環境防災関連製品一覧	P.4
■ 次号	P.4
■ お問い合わせ	P.4

概要

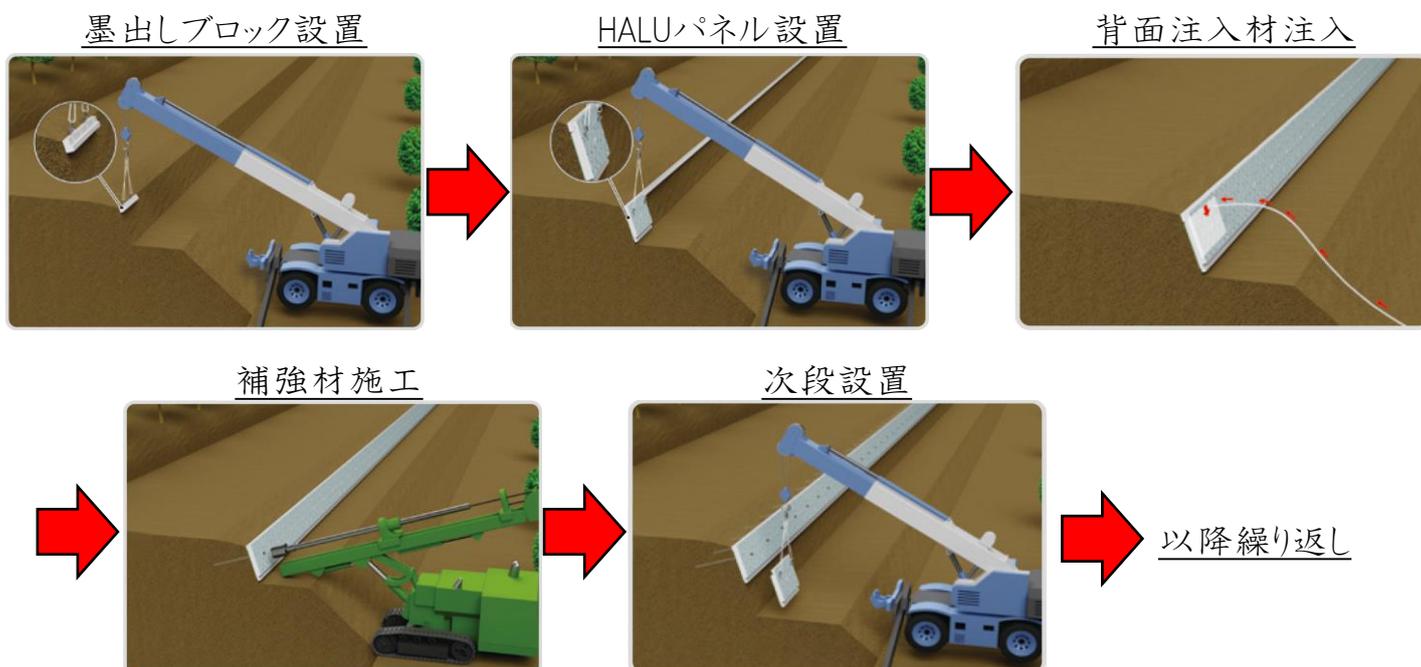
HALUパネル工法は、Hang(吊る) And Link(連結) Unite(一体化する)の頭文字から取ったパネル式の切土補強土壁工法です。表面材としてHALUパネルを使用し、地山に造成した補強材を頭部定着材で連結することにより、一体化したコンクリート壁面を構築し、切土法面の安定化を図ります。

切土・補強を行い1段ごとに補強土壁を完成させ切り下がっていく逆巻き施工を標準としているため、安定性を確保しながら、施工を行うことが可能です。

特長

- ① 品質管理の行き届いた工場製品で、しかも施工が容易なため、現場の省力化・工期短縮が図れる。
- ② 逆巻き施工で1段ごとに補強土壁を完成させるため、施工時の安定性が確保できる。
- ③ 急勾配の切土が可能のため、用地や掘削土量および斜面に生息する樹木の伐採が最小限に抑えられ、工費縮減が可能で環境や景観に与える影響も少ない。
- ④ 背面注入材を定着材と同じ配合にしており、注入材の相互利用や連続した注入作業が可能で合理性が高い。
- ⑤ 上段のパネルに引っ掛ける構造のため、千鳥配置が可能である。
- ⑥ 不陸が大きい設置面にも対応が可能である。
- ⑦ HALUパネル表面は自然に溶け込む擬岩模様を採用し、景観に配慮している。

施工手順イメージ



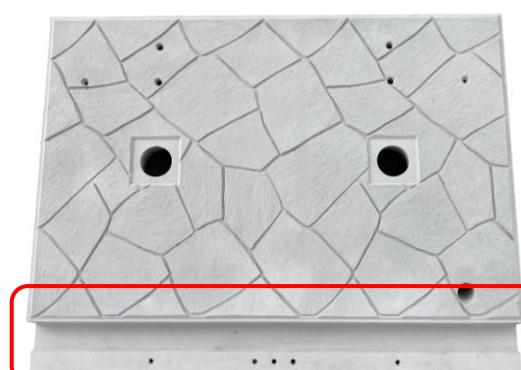
製品ラインナップ

製品ラインナップとして、約1.8m×約1.2mの標準タイプ、約0.9m×約1.2mのハーフタイプ、標準タイプに対して、2本の補強材施工が行える2穴タイプの3規格があります。また、各規格において、逆巻施工を可能とするため、下部に引っ掛け部有するパターンと最下段用に引っ掛け部を除外した最下段用のパターンがあり、ラインナップとして全6種類をご提供しています。

標準タイプ

ハーフタイプ

2穴タイプ



※赤枠内が引っ掛け部

HALUパネルの許容荷重

常時荷重(Td)	一時荷重(1.5Td)
90kN/本	135kN/本

※常時荷重=補強材の引張り力の低減係数 λ (0.7)
×補強材D29の許容荷重

施工事例



■ 環境防災関連製品の紹介 ■



各種製品、工法の詳細はこちら

⇒ [環境防災事業分野カタログ一覧](#)

【お問合せ】

本メルマガに対するご意見やご要望は、下記までお気軽にご相談ください。
また設計検討に関する問合せや資料請求も下記までご用命ください。

- 株式会社エスイー 環境防災部
- 問合せ専用ページ
- 株式会社エスイー
- 環境防災部

ネットショップ始めました！

右記リンクからご注文いただけます。

TEL:03-5321-6515 / FAX:03-5321-6519

<https://se-kankyobosai.jp/contact>

<https://www.se-corp.com>

<https://www.se-kankyobosai.jp>

<https://senetshop.com/>